

ハイサイ沖縄

3

Mar. | 2022
沖縄開教本部通信
vol.98

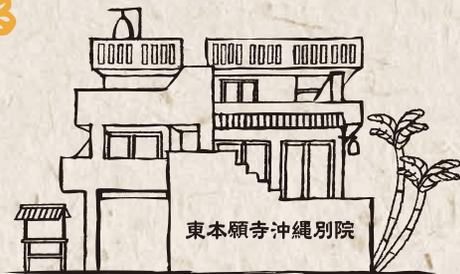
※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと



目次

「浄土(の)真宗」を生きるとは 玉光 順正

- 米軍基地内感染突出
- 除夜の鐘撞き
- コラム 「沖縄の冬は寒い!？」長谷 暢



普天間基地・墓地と誘導灯

門信徒とは、その時代をそれぞれ「きよらかさ」と「まこと」を求めて生きてこられた方々である。それは当然のごとく、承

元法難、一向一揆、石山本願寺合戦等々、その生き方が、その時代の支配者とぶつかって弾圧されたこともあった。前回ふれた『曾我量深説教隋聞記』の「還相社会学」という言葉は、「隋聞記」だからなのか、曾我先生の言葉にもかかわらずほとんど注目されていない。同じことを、藤元正樹先生は、「真宗」というのは、お念仏の教えというようなのは、念仏の教えを聞かざり、あらゆる課題にお念仏が応えていることを学ぶということが還相の菩薩の意味だろうと思います。『大地10』と言われている。また上原専祿さん(元一橋大学学長)も「政治の問題を、具体的に現実に掘り下げてゆくこと自体が安心を確立する場であり、さとりに至る道である」とする立場が、教義的にも信仰的にも成り立ちうるわけだと思えます。『著作集26』と言われている。今年には沖縄の日本復帰50年になる。その沖縄に、新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。1月8日、

私たちには今、そのような政治、経済、科学、教育、メディア等々あらゆる分野に「きよらかさ」と「まこと」をとりもどすための真実の行、念仏が求められている。

親鸞は何故「浄土(の)真宗」なのか。浄土の「浄」とは「きよらかさ」であり、真宗の「真」とは「まこと」である。私は今、改めてこの言葉のすごさを感じさせてもらっている。浄土真宗の

※数字は『真宗聖典』の頁数
親鸞は何故「浄土(の)真宗」なのか。浄土の「浄」とは「きよらかさ」であり、真宗の「真」とは「まこと」である。私は今、改めてこの言葉のすごさを感じさせてもらっている。浄土真宗の

「浄土(の)真宗」を生きようとしている私たち、沖縄そして、本土の人々は、これらの課題について、どのように考え、対応すべきだろうか。政教分離と言われる。ある意味当然のことでもある。しかしそれは政治にもの言うなということではない。これまでも大谷派は宗参議会で「不戦決議」(1995年)「非戦決議」(2015年)を決議し、「基地問題に苦しむ沖縄の人々の心に向き合」おうと表明している。宗参議会や各種議会等で沖縄の民意にも沿って辺野古新基地反対の意志を表明することも真実の行ではないだろうか。

親鸞は、『教行信証』の中で、「浄土(の)真宗」という言葉を四回にわたって使っている。真実の教 浄土の真宗(150)／謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の廻向あり。(152)／浄土真宗は在世・正法・像末・法滅、濁悪の群萌、齊しく悲引したまうをや。(357)／浄土の真宗は証道いま盛なり。(398)

「浄土(の)真宗」を生きようとしている私たち、沖縄そして、本土の人々は、これらの課題について、どのように考え、対応すべきだろうか。政教分離と言われる。ある意味当然のことでもある。しかしそれは政治にもの言うなということではない。これまでも大谷派は宗参議会で「不戦決議」(1995年)「非戦決議」(2015年)を決議し、「基地問題に苦しむ沖縄の人々の心に向き合」おうと表明している。宗参議会や各種議会等で沖縄の民意にも沿って辺野古新基地反対の意志を表明することも真実の行ではないだろうか。

「浄土(の)真宗」を生きるとは

玉光 順正 (元教学研究所有長)

沖縄県では過去最多の1759人にもなった。在日米軍基地経由の感染拡大が言われているが、沖縄、山口、広島三県のまん延防止措置は、それと関係が深いと考えられている。本土の人々にとっては観光地でもある沖縄。国土面積でいえば0.6%の沖縄は、同時に、在日米軍基地負担の割合は70%である。



【米軍基地内感染突出】

沖縄県内の在沖米軍基地内では昨年12月15日以降、キャンプ・ハンセンで沖縄に移動してきた米軍関係者による集団感染が広がっており、同29日にはオミクロン株の流行が確認された。米軍関係者は米国出発時のPCR検査が義務づけられていたが、昨年九月以降解除されていた。ワクチンを二回接種してれば基地内、基地間移動が

可能だった事も判明。感染拡大の一因ともみられている。1月12日の新規感染者は米軍基地内だけで295人に上り合計では2219人に達した。厚生労働省検疫所が公表している感染者数が多い国と比較しても在沖米軍基地内の数字は大きい。対応として日米両政府は10日からの14日間在日米軍関係者に関するし不要不急の外出を制限するとした共同声明を発表している。

県民の間でも爆発的に感染拡大しており、県民からは「対応が遅い」との声や、「マスクをしないで外出する米軍関係者もいる。県民が不安を感じている」ということを、米兵や軍属の人たちはどれだけ認識しているのか。関心がないのでは」と根本的な温度差を問題視しており、日米地位協定の改定を求める声などもある。

「除夜の鐘撞き」

今年も例年通り、東本願寺沖繩別院において12月31日に除夜の鐘撞き、そしてそのままをまたいでの修正会が勤まった。昨年同様、コロナ感染拡大を考慮し、チラシなどの広報は控えられた。年末年始と沖縄も

寒く、風の強い天候となったが、100名を大きく超える参拝があった。対応できるスタッフの数は少なかったが、毎年参拝し常連となった方々が、今年初めてお参りされた方を案内してくれたり、順路などを教えたりしていた。運営としては大助かりのお手伝いをしてくださり、誠に感謝するばかりである。また本年も残念ながら本堂での音楽ライブはできなかったが、別院所属の僧侶数人でお勤めすること

ができた。また、ありがたいことに参加者などから、鐘撞きの開催方法について提案をいただいた。「深夜は寝てしまっている子供も鐘撞きしたいだろうから、夕方に子供のための時間を作ってはどうか」などは実現できればと思うものである。来年からは、これまで参拝していただいている方、新しく参拝をしたい方に向けても、より意義のあるものに創意工夫が必要と感じている。

「コラム」 「沖縄の冬は寒い?」

沖縄での生活は大学時代も含めると4半世紀となる。滋賀県北部の出身で、冬には雪が降り、氷が張る環境で育ってきた。そんな私でも沖縄の冬はそれなりに「寒い」と感じてきた。気温を見ると冬季の平均気温は18℃程度。最低気温が一ケタになるものなら「今季一番の寒さ」と報道され、皆「寒い、寒い」と口にする。日本の寒い地域の方からすれば笑いながら「それは暖かいね!」と言われてしまう。

しかしである、長年住んできて、やっぱり寒いのである。暖かい気候になれたからかもしれないと思ってきたが、気になるので調べてみた。

実際の気温とは別に「体感温度」というものがある。これを導き出すインターネットのサイトが(真偽のほどは不明だが)複数存在している。その一つに沖縄の冬の平均気温、湿度、風速を入れ込んでみると、なんと体感温度が9.5℃となるらしい。まあまあ寒いではないか。仮に気温が10℃だとすると体感温度がマイナス0.6℃となる。これは寒い。ちなみに同じ期間で京都の気温が10℃の日の体感温度は4.1℃と表示された。沖縄の方が寒く感じるということだ!

実際に数字で物事を判断すると現実を見誤る、そんな典型的な身近な事象である。やはり足を運ばなければわからない、リモートだけでは伝わらないこともあるのだ。

沖縄開教本部 出仕 長谷 暢